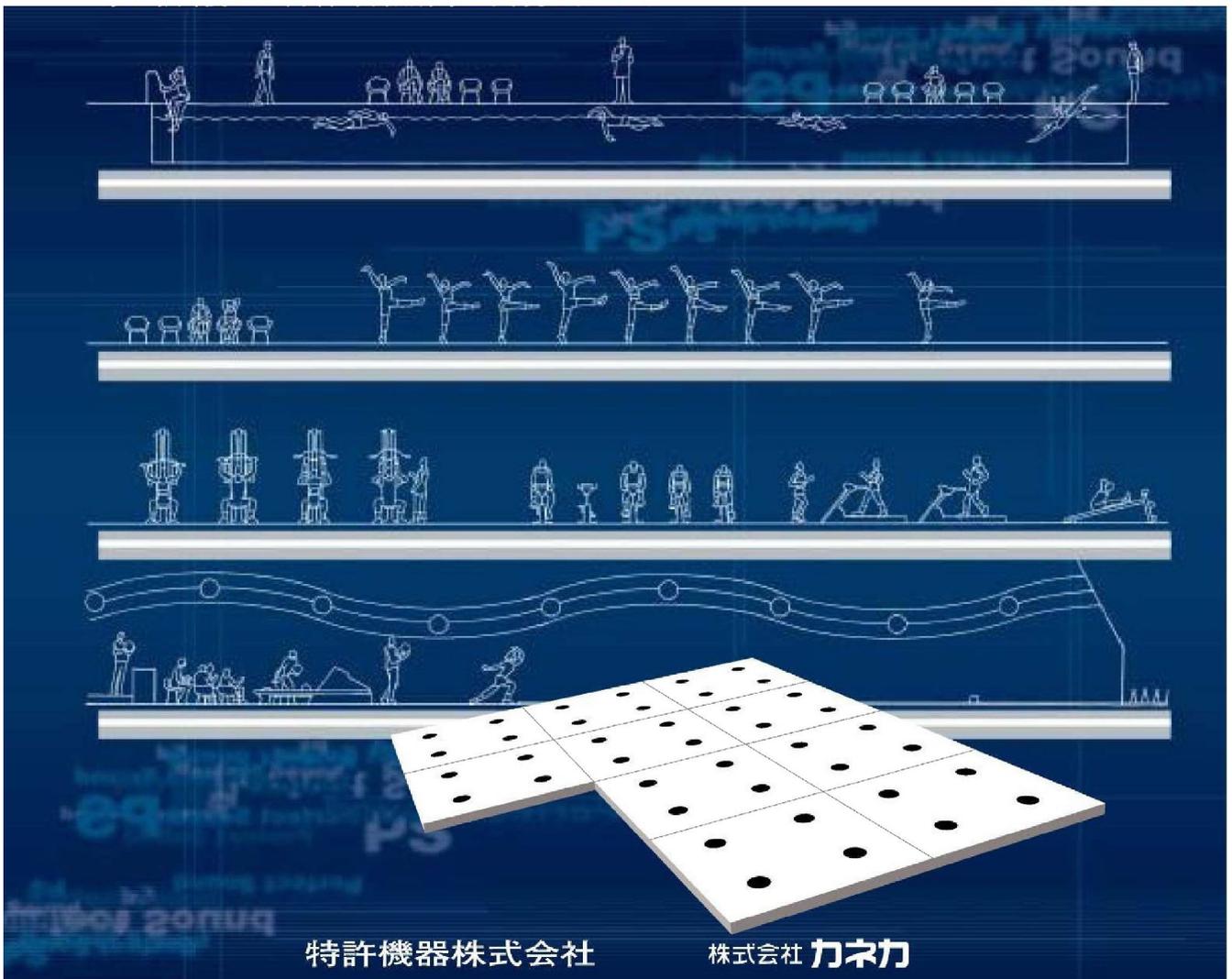


**耐水型高発泡浮床材**  
Perfect Sound Block Board for Structure-Borne Sound

# PSブロック

## 施工要領書



## ◆目次

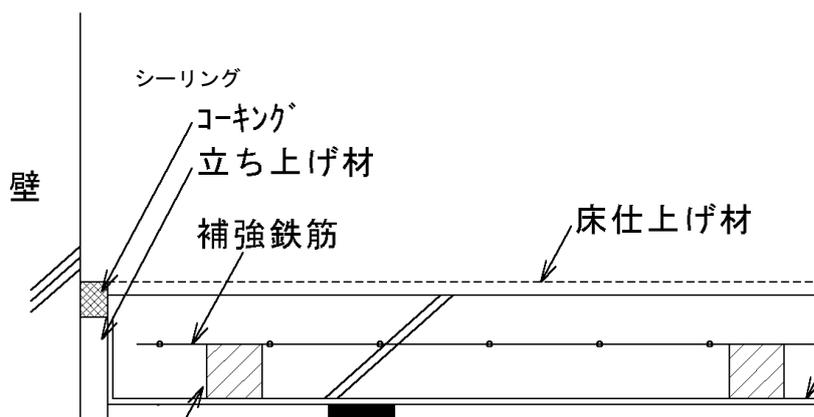
|                |       |         |
|----------------|-------|---------|
| 1. PSブロック浮床の構成 | ----- | 2 頁     |
| 2. 製品仕様        | ----- | 3 頁     |
| 3. 施工手順        | ----- | 4～12 頁  |
| 4. 施工上の注意点     | ----- | 13～14 頁 |



## 製品取扱上の注意事項

- 火気注意                    難燃材を加えて微少火源では着火しにくくしてありますが、不燃材ではありません。  
製品に火源が接触しないようご注意ください。
  - 有機溶剤注意              アルコール系以外の有機溶剤、石油類には侵されますのでご注意ください。
  - 高温注意                    高温になると樹脂が軟化しますので、65℃以下でご使用下さい。
  - 強風注意                    軽量で取扱いが容易な反面、風にもあおられやすいので強風下での作業は、  
行わないで下さい。
  - 廃棄する際の注意        廃棄する際には、各地域の廃棄物処理指針に従って処理して下さい。  
燃やすと黒煙（すす）がでますのでご注意ください。
- ◎注意事項に関しては、一般的取扱いを対象としたものです。詳細は本紙巻末連絡先までお問合わせ下さい。

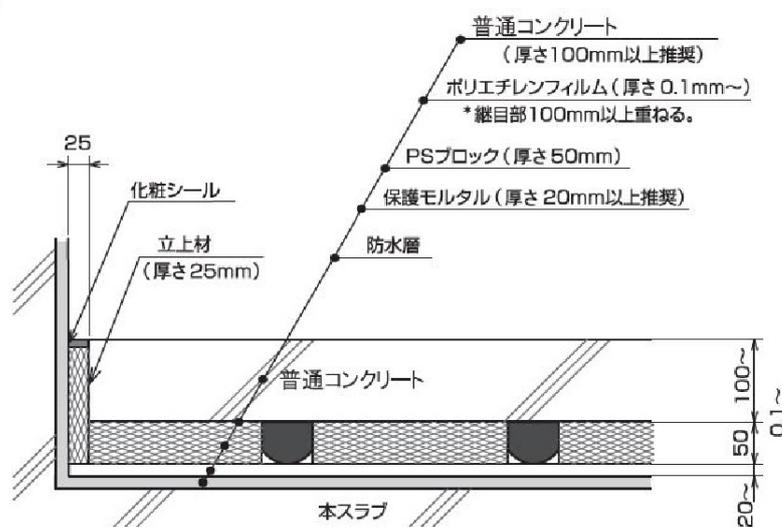
## 1. PSブロック浮床の構成



- ◆PSブロックは高発泡ポリスチレンフォームと防振ゴムを組み合わせた、湿式浮床用防振材です。
- ◆PSブロック浮床には壁面の縁切りに用いる立上材があります。
- ◆PSブロック浮床は、躯体スラブの上にPSブロックを敷き込み、防水被覆材（ポリフィルム）を敷き重ねた上に浮床コンクリート層を設ける工法です。
- ◆この工法の重要なポイントは、浮床コンクリート層をPSブロックによって、躯体の床・壁から完全に絶縁する事です。

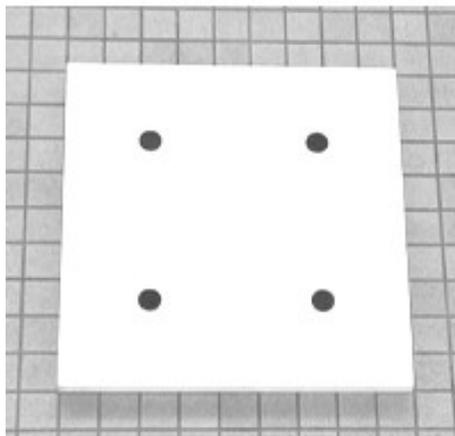
浮床コンクリート層が、コンクリートノロや端部の埋め戻しによって躯体の床・壁に連結してしまうと、本来の防振・遮音性能が得られません。

- ◆防水層にPSブロックを敷きこむ場合は、防水層保護の観点から、保護モルタル等で防水面を養生することを推奨します。



## 2. 製品仕様

### ◆製品姿写真



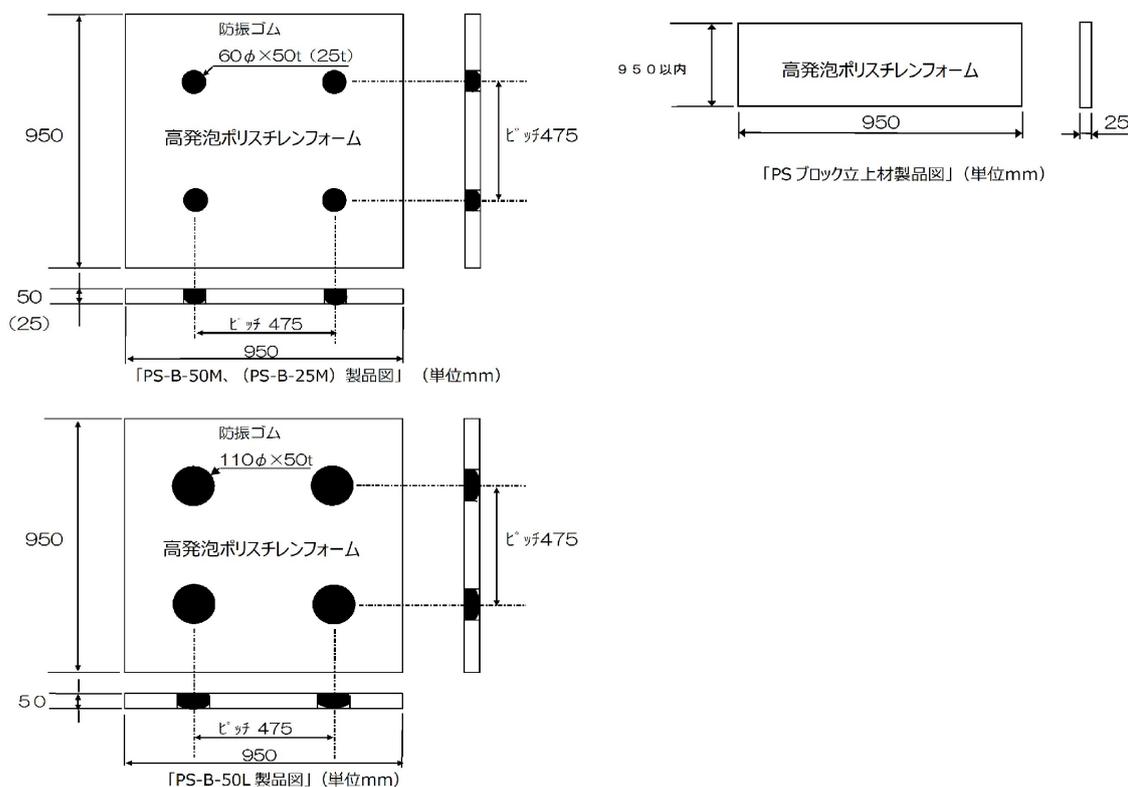
左：PSブロック (PS-B-50M)

上：PSブロック立上材

### ◆製品仕様

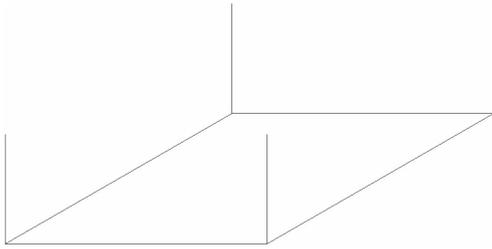
| 製品名 (耐荷重)                          | 材料名 | 高発泡ポリスチレンフォーム | 防振ゴム       | 製品重量     |
|------------------------------------|-----|---------------|------------|----------|
|                                    |     | 厚み×幅×長さ (mm)  | 厚み×直径 (mm) | (kg/枚)   |
| PS-B-50M (800 kg/m <sup>2</sup> )  |     | 50×950×950    | 50× 60φ    | 約 1.2 kg |
| PS-B-25M (800 kg/m <sup>2</sup> )  |     | 25×950×950    | 25× 60φ    | 約 0.6 kg |
| PS-B-50L (2400 kg/m <sup>2</sup> ) |     | 50×950×950    | 50× 110φ   | 約 2.6 kg |
| PSブロック立上材                          |     | 25×950 以内×950 | —          | —        |

### ◆製品寸法



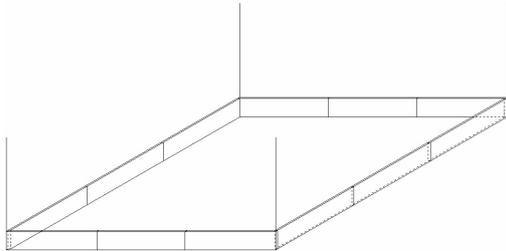
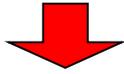
### 3. 施工手順

#### 3.1 施工の流れ



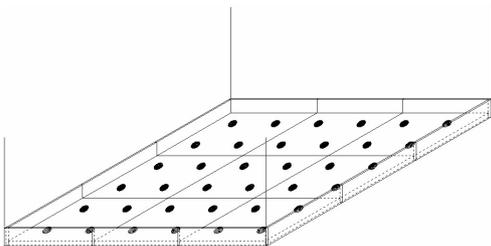
#### ① 床面のケレン・掃除

躯体の床を金ゴテ等で平滑に仕上げ、掃除を行う。



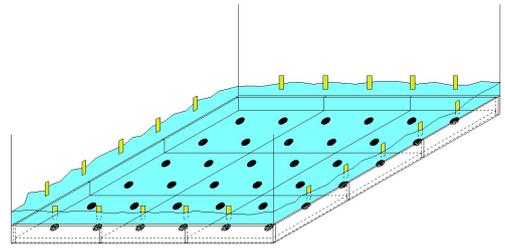
#### ② 立上げ材の貼り付け

浮床層の四周を立上げ材で完全に覆う。固定はガムテープ等で仮止めする。立上材高さは床仕上げレベルより高くしておく。



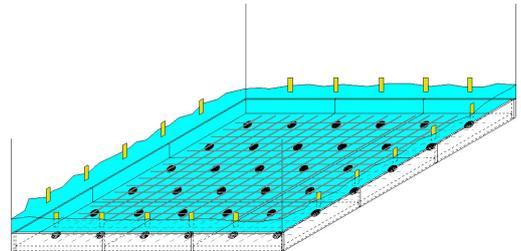
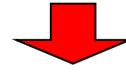
#### ③ PSブロックの敷きこみ

PSブロックを床面に隙間無く全面に敷きこむ。



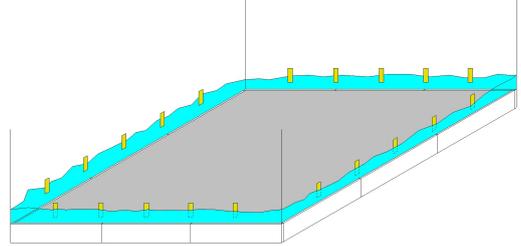
#### ④ ポリフィルムの敷きこみ

PSブロック、立上げ材の全体を覆うようにポリフィルムを敷きこむ。



#### ⑤ 配筋

メッシュ筋 (JIS G3511(溶接金鋼)線型2.3mm以上、網目寸法150mm以下) 以上の配筋を推奨する。重ね継ぎ手長さは150mm以上とする。



#### ⑥ コンクリート打設・床仕上げ

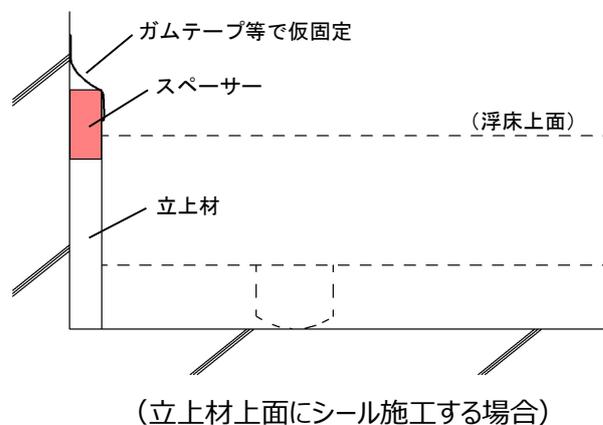
コンクリート打設の養生板(足場板)を設置し、ポリフィルムを傷つけないようにする。コンクリートを打設後、表面を金ゴテ等で平滑に仕上げる。

## ① 床面のケレン・掃除



- ◆ 躯体の床は、金ゴテ等で平滑に仕上げる。
- ◆ スラブ上あるいは壁際の突起物を除去し、スラブを平滑した後に清掃する。
- ◆ スラブが濡れている場合は水溜りに注意し、フロアワイパー等で水を除去する。  
(水溜まりがあると PS ブロックが浮き上がる)

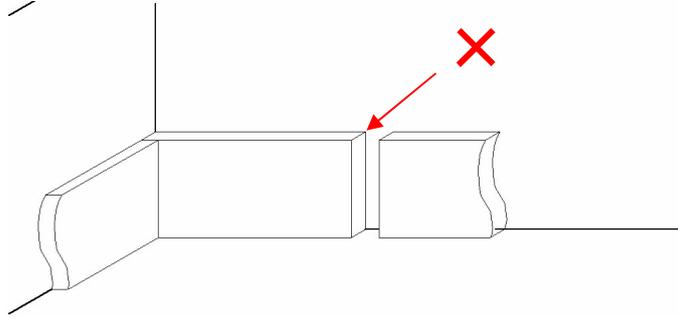
## ② 立上材の貼り付け



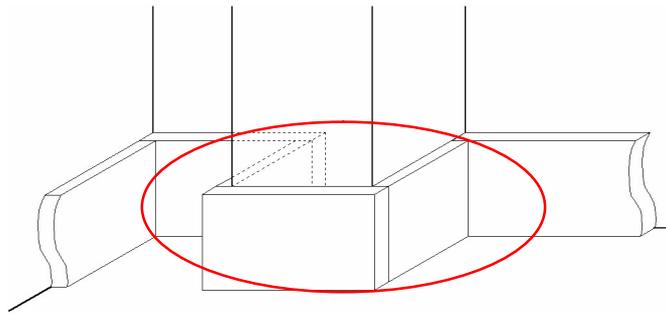
- ◆ 壁や土手等の立ち上がり部に立上材（25 mm厚）をガムテープ等で仮固定し取り付ける。
- ◆ 立上材（スペースを含む）高さは、床仕上げ面より高くしておく。
- ◆ 立上材上面にシール施工する場合は、発泡スチロール等、型枠替わりになるスペースを立上材上に仮固定し、床仕上げ時にスペースを外し、その溝にシールを打つ。

**※注意事項**

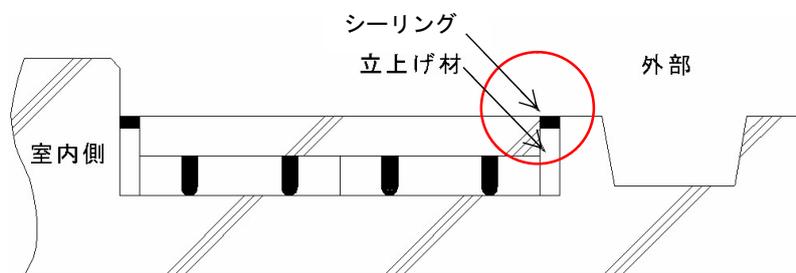
☆隙間をあけない！



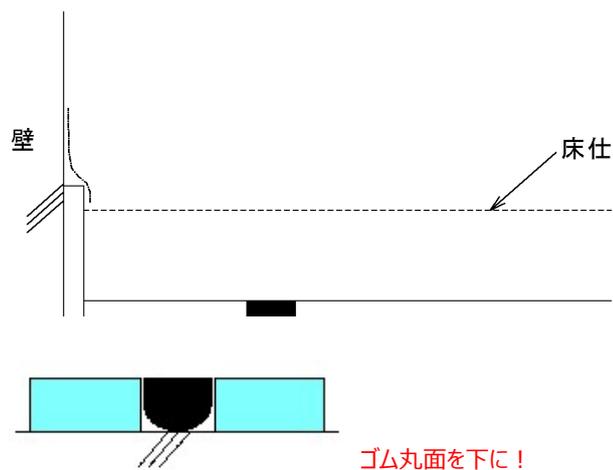
☆出隅・入隅部分にも必ず立上材で縁を切る！



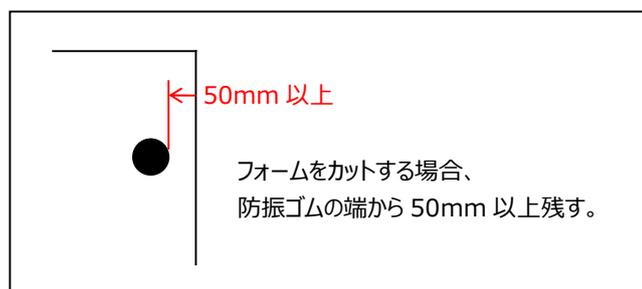
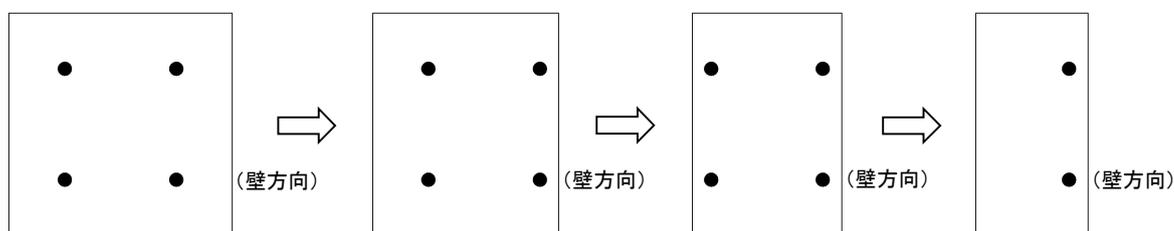
☆開放廊下等で側溝がある場合は、側溝の手前に立上げ材を施工する！



### ③ P Sブロックの敷き込み

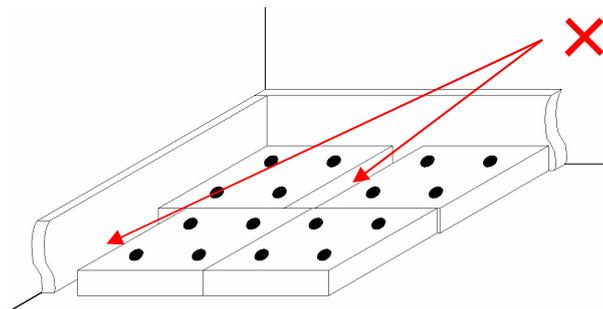


- ◆ P Sブロックを隙間無く床面全面に敷き込む。
- ◆ 防振ゴムの丸面が下になるように設置する。
- ◆ 壁際等の端部で P Sブロックをカットして敷きこむ際は、極力防振ゴムが4つ納まっている状態を作り出す為、端からカットする。カットした P Sブロックは、防振ゴムを壁側に寄せて設置する。



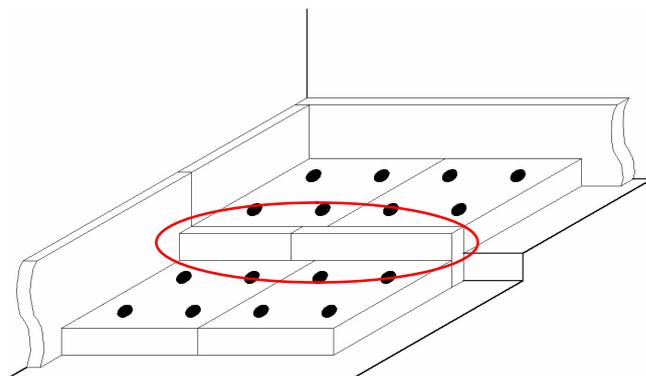
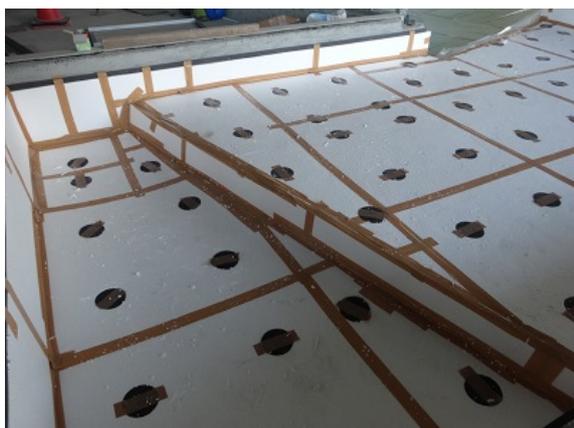
## ※注意事項

☆ P Sブロックどうし、もしくは立上げ材との間で隙間をあけない！

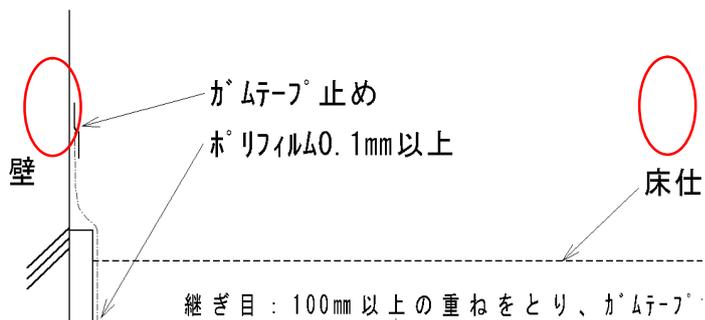


☆スラブに段差がある場合は、段差の垂直面に立上材を用いる！

また、PSブロックを位置決めしにくい場合は、目地をガムテープで留める。

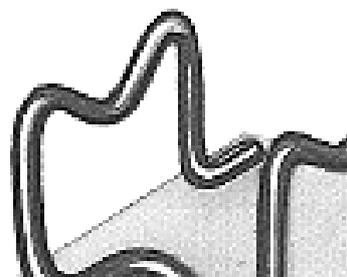


#### ④ ポリフィルム敷き込み



- ◆押えコンクリート打設時に目地からコンクリートノロが入り込まないよう、ポリフィルム（0.1 mm以上）等で PS ブロック敷き込み全面をポリフィルムで養生し、目地部を塞ぐ。
- ◆ポリフィルムの継ぎ目は、100 mm以上の重ねをとり、ガムテープ等で目貼り処理する。
- ◆壁面と押えコンクリートが繋がらないよう、立上材の上端より上までポリフィルムを敷き、ガムテープ止める。

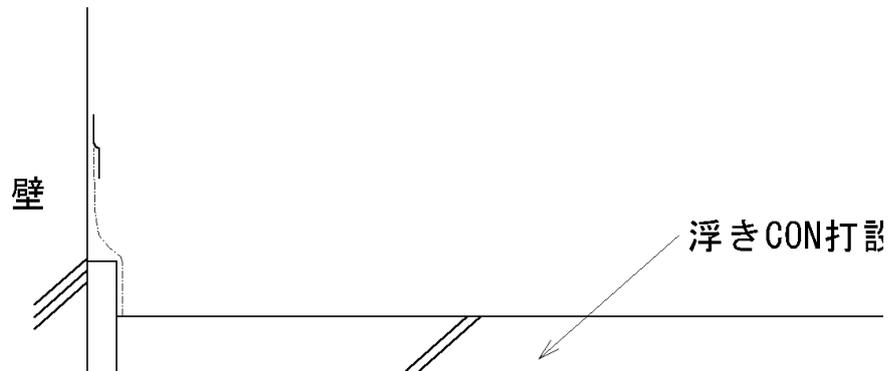
#### ⑤ 配筋



プレート付きスペーサー

- ◆配筋用スペーサーはプレート付きのものを使用する。  
(プレートが無いスペーサーで施工すると、スペーサー先端でポリフィルム養生や PS ブロックに孔が空き、コンクリートノロが漏れて、施工不良になる可能性があります)
- ◆スペーサーは PS ブロック敷き並べの目地の部分を外して配置する。
- ◆メッシュ筋（JIS G3511（溶接金網）線径 3.2 mm、網目寸法 100 mm程度）を配筋する。
- ◆重ね継ぎ手長さは 150 mm以上とする。

## ⑥ コンクリート打設



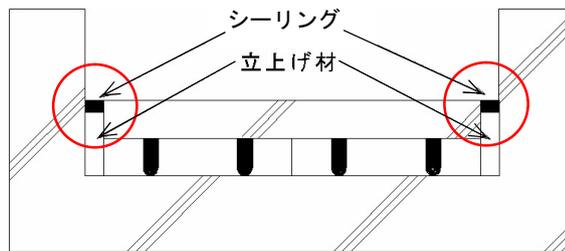
- ◆コンクリート打設用の養生板（足場板）を設置し、ポリフィルムを傷つけないようにする。
- ◆コンクリートを打設後、表面を金ゴテ等で平滑に仕上げる。
- ◆コンクリートが躯体の壁に連結しないように注意する。
- ◆ポリフィルムが破れていないか、コンクリート打設前に確認する。

## ⑦ 養生

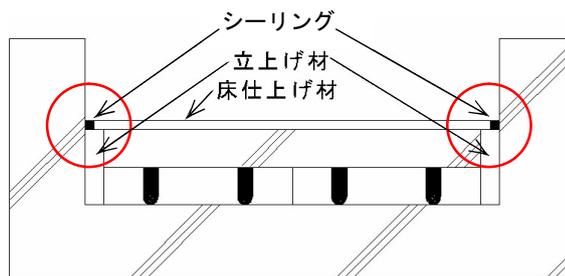
- ◆強度発現、ひび割れ防止の為、散水あるいは養生シート掛け等の養生をする。
- ◆養生時は浮床上に資材等積載物を載せない。

## ⑧ 浮床層の端部処理

- ◆あらかじめ床仕上げ面より高くしていた立上げ材を所定の高さに切り取る。
- ◆床仕上げ材の無い場合は、立上げ材の上端部にシーリングを行う。
- ◆有機溶剤が浮き床内に浸入しないよう注意する。

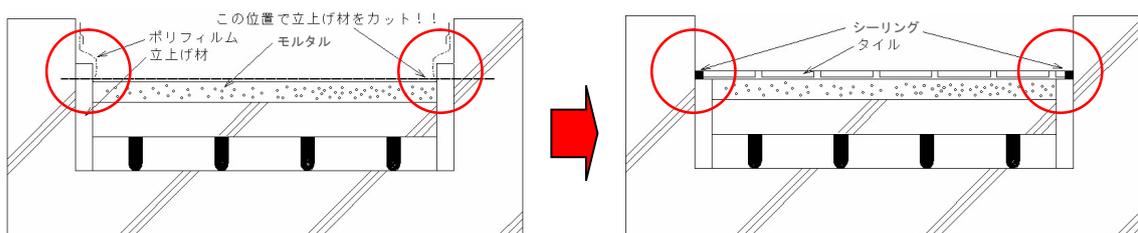


- ◆床仕上げ材がある場合は床仕上げ材の端部にシーリングを行う。

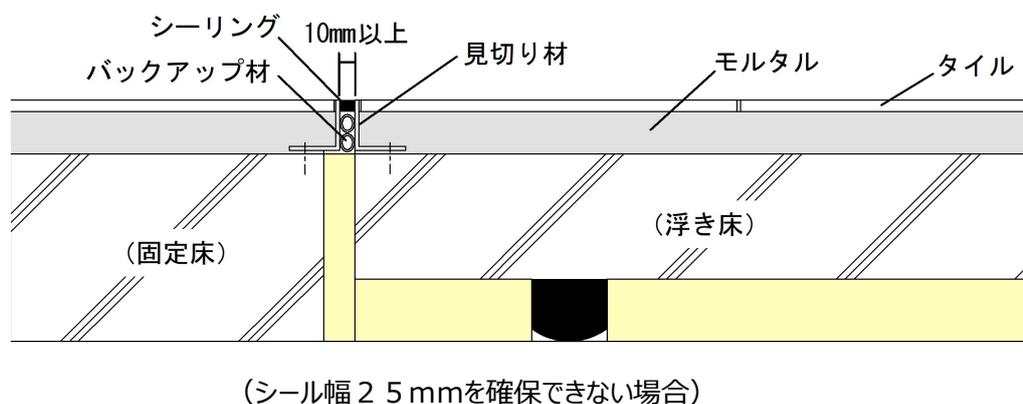
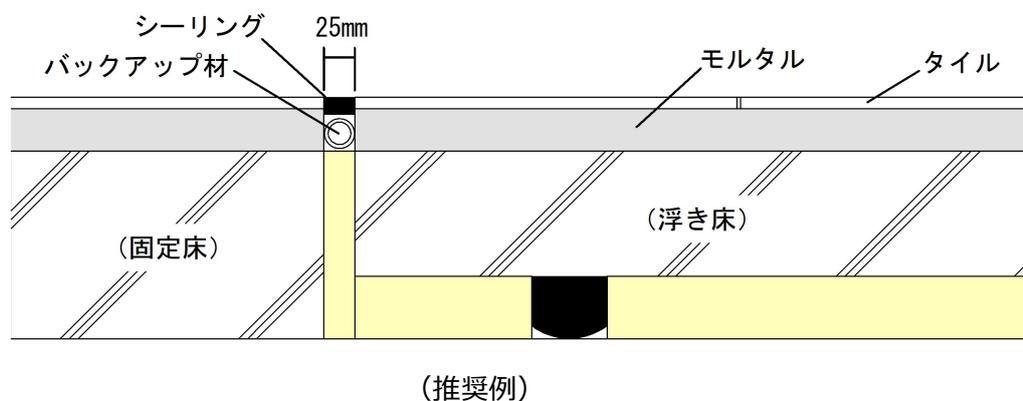


- ◆タイル仕上げで立上材スペーサーを用いない場合は、モルタルを施工したレベルで立上材をカットする。
- ◆タイル施工時には壁との間にタイル目地ストッパーを用いる。

(タイル目地ストッパーを外した後、隙間が取れているか、ノロがまわっていないかを確認してからシーリングする。)



◆固定床と連続する浮き床境界部での施工参考例



固定床との境界部では、長期的には多少の段差（2～3mm 程度）が諸条件により生じる為、段差が目立たないように、表面仕上げにご留意願います。

また、仕上げまでの養生期間を十分にとり（80 日以上推奨）、仕上げ後に重量物（資材や作業車など）は載せないでください。

シール幅 25mm を確保出来ない場合は、10mm以上としてください。浮き床と固定床が絶縁されていることが必要です。

## 4. 施工上の注意点

### (1) 浮床と躯体間の音響・振動的な架橋（連結）に注意してください。

コンクリートノロ、仕上げ材等による僅かな振動連結で、防振効果が発揮できなくなります。  
また、設備配管は原則として浮床上には設置せず、浮床外部に設置するか、ピットを設けて緩衝材で絶縁してください。



### (2) 床仕上げ施工は、十分な養生期間をとってから行ってください。

押えコンクリート打設後、初期沈下が安定するまで十分な養生期間（80 日以上推奨）を確保してください。また、床仕上げ後に資材、作業車などの重量物は設置しないでください。

◆参考値：防振材の想定撓み

品名：PS-B-50M  
荷重条件：345kg/m<sup>2</sup>

| Con 打設後の経過期間 | 防振材の撓み量 [mm] | 打設 1 日後を基準とした変化量[mm] |
|--------------|--------------|----------------------|
| 1 日後         | 2.4          | —                    |
| 7 日後         | 2.9          | 0.5                  |
| 80 日後        | 4.0          | 1.6                  |
| 1 年後         | 4.5          | 2.1                  |

※静置状態を前提とした想定。（途中載荷は考慮していません）

**(3) P Sブロックを2段重ねで敷き込みしないで下さい。**

押えコンに嵩上げが必要な場合、硬質のポリスチレンフォーム等を使用してください。  
過去に誤ってP Sブロック2段重ねの施工を行い、浮床が大きく沈下した事例があります。

**(4) P Sブロック上の押えコンクリートは一体構造にして下さい。**

P Sブロックは部材面全体で荷重を受ける（等分布荷重）製品です。  
スリット目地等で押えコンクリートが分断される納まりの場合、歩行荷重程度でもP Sブロックに局所荷重が掛かり、部分的に浮床が沈み込みます。その傾向は、小面積に押えコンが区切られるほど顕著になります。また、荷重が掛かっていなくても目地に段差がつく可能性があります。  
押えコンクリートが分断される納まりを検討される場合は、弊社までお問い合わせ下さい。

**(5) P Sブロック上の押えコンクリートについて**

P Sブロックは、等分布に荷重を掛けることで防振機能が発揮される製品です。  
押えコンクリートが薄過ぎると、防振性能が発揮されないだけでなく、ひび割れ等の不具合が発生する恐れがあります。  
押えコン厚さは100mm、最低でも80mmとし、通常施工と同様、溶接金網(線径3.2mm、網目寸法100mm程度)を挿入して下さい。

**(6) P Sブロック立上材上（固定床と浮床との境界）のシール幅は出来るだけ25mmを確保してください。**

シール目地幅がない場合、弾性体である浮床が、歩行加振により僅かに上下に動くため、目地箇所ですり屑の割れといった問題が発生する場合があります。

**(7) 浮床面積は出来るだけ広い面積を確保して下さい。**

狭い面積の浮床で設備機械を搭載した場合、設備機械の偏荷重により浮床が傾く恐れがあります。

**(8) PSブロック施工時、保管時に火花がふりかからないようにして下さい。**

その他、ご不明点等ございましたら、メーカーまでお問い合わせください。

◆連絡先

【製造元】



Vibration Control Technology  
特許機器株式会社

東京支店 〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-5-15 TEL (03) 6831-0001 (代)

本社・工場 〒660-0833 兵庫県尼崎市南初島町 10-133 TEL (06) 6487-3939 (代)



快適で最適な環境づくりのご相談は、豊富な経験・実績で信頼できる特許機器へ

[https:// www.tokkyokiki.co.jp](https://www.tokkyokiki.co.jp)

**KANEKA** 株式会社 **カネカ** Foam & Residential Techs Solutions Vehicle.

東京本社 〒107-6025 東京都港区赤坂1-12-32 (アーク森ビル)

【販売元】

**KANEKA** カネカケンテック株式会社

北海道 〒060-0002 北海道札幌市中央区北 2 条西 3-1-20 TEL (011) 222-5231

東京 〒112-0004 東京都文京区後楽 1-1-7 TEL (03) 6370-2370

名古屋 〒461-0008 愛知県名古屋市東区武平町 5-1 TEL (052) 959-3251

大阪 〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町 4-4-10 TEL (06) 6205-3621

九州 〒812-0006 福岡県福岡市博多区上牟田 1-9-17 TEL (092) 778-1001

